

ルニ極ク輕クテ上レバ此ノ旅籠コソ輕ケレ守ノ殿ノ乘リ給ヘラバ重クコソ可有ケレバト云ヘバ亦或ル者ハ木久枝ナドヲ取リスガリ給ヒタレバ輕キニコソ有メレバト云テ引ク程ニ旅籠ヲ引上タルヲ見レバ平茸ノ限リ一旅籠入タリ然レバ心モ不得テ互ニ顔共ヲ護テ此ハ何ニ下云フ程ニ亦聞クテ底音有テ然テ亦下セト叫ブガリ此レヲ聞テ然テ亦下セト云テ旅籠ヲ下シツ亦引ケト云フ音有レバ音ニ隨テ引クニ此ノ度ハ極ク重シ數人懸リテ絡上タルヲ見レバ守旅籠ニ乘テ被絡上タリ守片手ニハ繩ヲ捕ヘ給ヘリ今片手ニハ平茸ヲ三總許持テ上給ヘリ引上ツレバ懸橋ノ上ニ居エテ郎等共喜合テ抑モ此ハ何ゾノ平茸ニカ候ゾト問ヘバ守答フル様落入ツル時ニ馬ハ疾ク底ニ落入ツルニ我レハ送レテメキ落行ツル程ニ木ノ枝ノ滋ク指合タル上ニ不意ニ落懸リツレバ其ノ木ノ枝ヲ捕ヘテ下ツルニ下ニ大キナル木ノ枝ノ障ツレバ其レヲ踏ヘテ大キナル膝ノ枝ニ取付テ其レヲ抱カヘテ留リタリツルニ其ノ木ニ平茸ノ多ク生タリツレバ難見棄クテ先ヅ手ノ及ビツル限リ取テ旅籠ニ入レテ上ツル也未ダ殘リヤ有ツラム云ハム方无ク多カリツル物カナ極キ損ヲ取ツル物カナ極キ損ヲ取ツル心地コソスレト云ヘバ郎等共現ニ御損ニ候ナド云テ其ノ時ニゾ集テ散ト啖ヒニケリ○下略

〔宇治拾遺物語〕「これも今はむかし丹波國篠村といふところに年比平茸やるかたもなくおほかりけり里村のものこれをとりに人にもこゝろざしまたわれもくひなどしてとしごろするほどにその里にとりてむねとあるものゆめにかしらおつかみなる法師どもの二三十人ばかりいできて申べきこといひければいかなるひとぞとふにこの法師ばらはこのとし比も宮づがへよくして候つるがこのさとの縁つきていまはよそへまかり候なんづることのかつはあはれにもしましたことこのよしを申さではとおもひてこのよし申なりといふと見てうちおどろきてこはなにごとぞと妻や子やなどにかたるほどにまたこの里の人の夢にもこの